transtron

トランストロン

飲酒状況を即座に確認

3月から新サービス

富士通グループのトランストロン（本社・横浜市、加藤祐三社長）は三月十日から、ネットワーク型デジタルタコグラフ（運行記録計）で使える運行支援サービスで「モバイルアルコールチェッカー連携機能」の提供を開始した。携帯型アルコール検知器に接続すると測定結果を日報に反映。ドライバーの飲酒状況をリアルタイムで確認できる。（小林　孝博）

始業終業時の検知を厳格化

先月開始したのは、車載器に携帯型アルコール検知器をつなぐと測定結果を自動で日報に反映するサービス。東海電子、タニタ、東洋マーク製作所が販売する対応製品を使えば利用できる。

国土交通省は平成二十三年、ドライバーの飲酒事故根絶を目的に点呼時のアルコール検知器使用を義務化。所属営業所から離れた遠隔地で点呼を行う際は、携帯型のアルコール検知器で飲酒状況を測定し、結果を運行管理者に報告することが義務付けられている。

一方、遠隔地でアルコールを計測する場合、運行管理者はドライバーが決められたルールを守っているかを確認するのが難しい。ユーザーからは「始業時と終業時にしっかり検知しているかを確かめる機能がほしい」との要望が強かった。

画像活用で過労運転防止も

新サービスは検知した時間、飲酒の有無といった情報を即座に日報に反映。運行管理者は営業所のパソコンからドライバーの測定結果をリアルタイムで確認できる。測定結果はクラウドサービスにより一元管理される。

またデジタコとドラレコ一体型の「DTS-C1D」に搭載されたカメラを利用すれば、ドライバーの測定時の写真を見ることも可能。画像から疲労状況を確認できるほか、別の人に検知をさせる〝成り済まし〟も防げる。

「サービスは月額料金の中で利用可能。ユーザーは特別なコストを掛けず、遠隔地でドライバーに確実な点呼を行わせることができる」（情報機器事業推進部の田中充部長）。

利用料はDTS-C1の場合、運行管理、地図ソフト、Q&Aサービスなどを含め月額二千三百六十円。ドラレコを搭載したDTS-C1Dは二千六百六十円（どちらも税抜き、一車両当たり）。携帯型アルコール検知器は別途購入が必要。

問い合わせ先は同社情報機器営業部、電話04（476）4640。

同社は現在、ネットワーク型デジタコ「DTS-C1」とドライブレコーダー機能を追加した「DTS-C1D」を発売中。どちらも富士通のネットワーク、クラウドサービスを利用したリアルタイムの運行管理ができるのが特長だ。

運行状況の動態管理が可能なほか、従来手作業で行っていた運行管理ソフトや地図情報の更新なども全て自動化。システムの維持更新費だけでなく、初期導入費を含めたユーザーのコスト負担を大幅に軽減した。

運行支援、地図ソフト、Q&Aなどは一括のサービスとして提供し、月々の利用料も定額で利用しやすくなっている。

ネットワークを強みにソフトの充実を進める「DTS-C1」

連携可能な携帯型アルコール検知器

	製品名
東海電子	ALC-Mobile（DTLセット）
タニタ	FC-1200F
東洋マーク製作所	AC-015iv